

MS Word による論文執筆講座（第3回）

森谷 友昭（編集幹事 東京電機大学）

Guide for Writing Papers Using MS Word (the 3rd)

Tomoaki MORIYA (Tokyo Denki University)

本学会では、論文の執筆フォーマットとして Tex と (MS) Word を用意している。Word は Windows 環境では長年に渡り使用されている定番の文書作成ソフトである。しかしながら論文のように与えられたフォーマットに沿った文書を作成したい際に思い通り扱えない場合も多い。本連載では論文執筆の際覚えておくと便利な Word の操作を、毎回ピンポイントで紹介している。ちなみに本連載自体も Word にて執筆されている。

今回のテーマ：

インデントを使いこなす

図1に示すように箇条書きや、図や表のキャプションで文の左端を揃えたい場合がある。

箇条書きは Word 標準の機能で用意されているので使用している方も多いと思う。箇条書きを使えば文の左端を自動的に揃えてくれる。しかし、箇条書きの先頭記号と文の間の余白の調整がうまくいかずイライラしたことはないだろうか。

また、図や表のキャプションでも左端を揃えたいが、箇条書きを使うわけにはいかない。

Word では、前述の箇条書きにおける先頭記号と文の間の余白や、ページ左余白から文始りの間などの余白を総じて「インデント（字下げ）」と呼んでいる。今回はこのインデントの使い方について書いていく。

インデントは文の上にカーソルを置き、右クリックし[段落]のプロパティから設定できるが、あまり直観的ではなく設定しづらい。そのため通常は図2に示すルーラーを使用する。ルーラーが表示されていない場合は[表示]メニューの[ルーラー]にチェックを入れることで表示される。

ルーラーの使い方を具体的な例によって紹介する。

・箇条書きのインデントの調整

まず、インデントを調整したい箇条書きをすべて選択する。ここで選択を行わないと、カーソルが置かれている行の箇条書きしかインデントが調整されないので注意する。

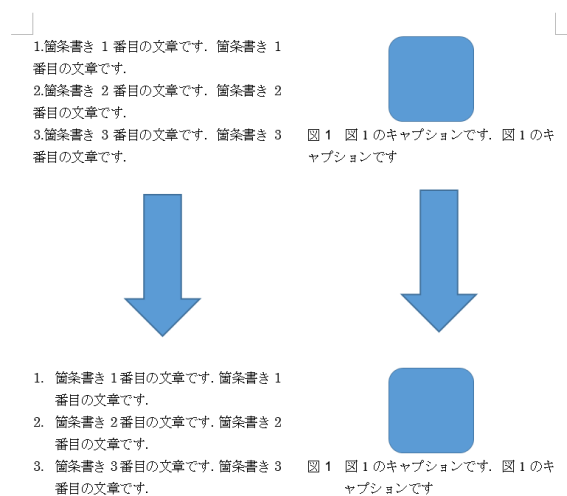


図1 インデントによる左揃えの例

Fig.1 Examples of left text alignment by indents

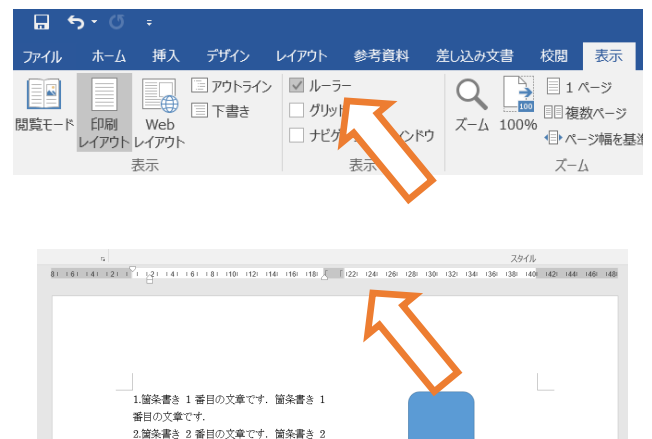


図2 ルーラー

Fig.2 Ruler

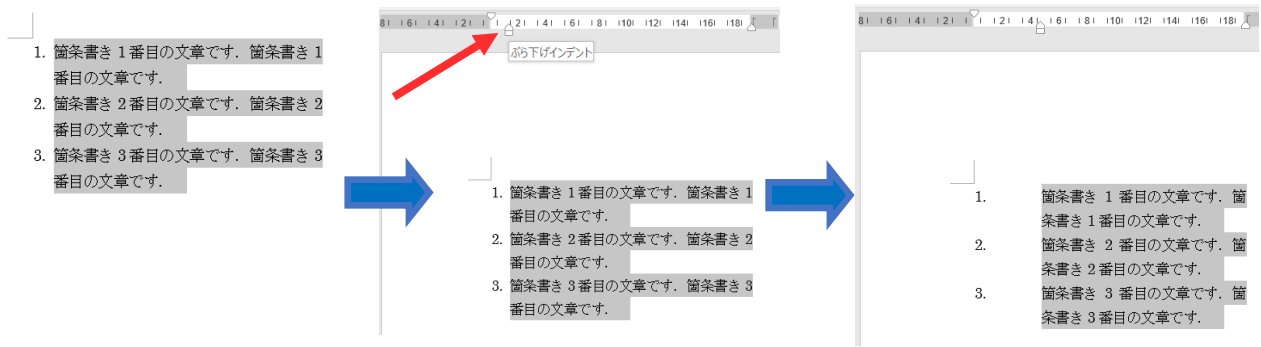


図3 ルーラーによる箇条書きのインデント調整

Fig.3 Adjustment of bullet point indents by ruler

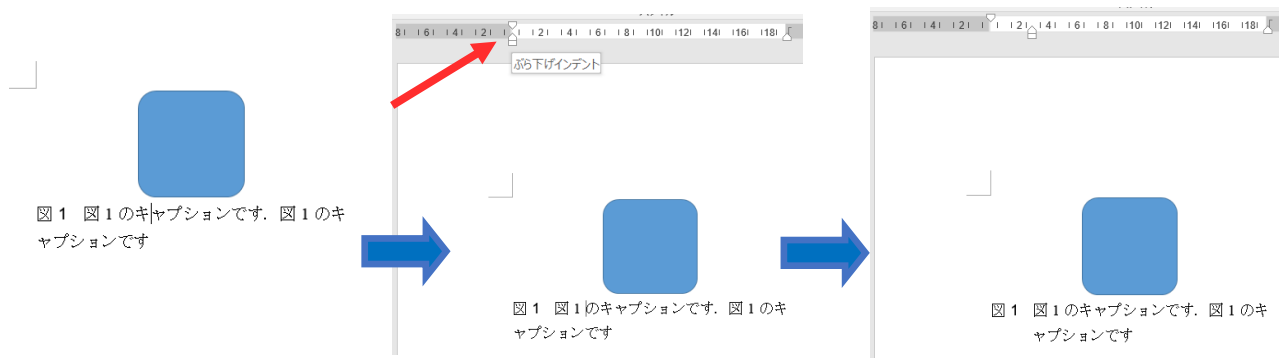


図4 ルーラーによるキャプションの左揃え

Fig.4 Caption left alignment by ruler

選択した後は、ルーラー上の△をドラッグすることでインデントを調整できる(図3)。ただし、ルーラー上の△は、見た目よりもマウスカーソルでクリックできる領域がだいぶ小さいので注意が必要である。△の上にはしばらくマウスカーソルを置いたとき、ヒントのポップアップで「ぶら下げインデント」と表示されれば正解である。

るので、目視で左端を揃えることができる。調整を終えたら、先にマウスボタンを離し、[Alt]キーを離す。

できれば、上の段のキャプション左端に目視ではなく値でピッタリと合わせたいところだが、残念ながら私はその方法を知らない。もしご存知の方がいらっしゃればご一報いただきたい。

・図や表のキャプションの左揃え

まず、左揃えにしたいキャプションにカーソルを置く。描画キャンバスのテキストボックス内のテキストでも同様の操作が可能である。

ルーラー上の△をドラッグしてキャプションの左端がそろるように調整する(図4)。ドラッグした際、デフォルトの設定であれば、インデントは一定の間隔で動く。しかしながらこれが曲者で、この間隔は上の行の文字に合わせて動くわけではない。そのため、この余計な機能のおかげで大抵キャプションの左端が合わない。そこで[Alt]キーを押しながら△をドラッグすると、連続的にインデントを微調整することができ



森谷 友昭 (正会員)

2007年 東京電機大学大学院先端科学技術研究科情報通信メディア工学専攻博士課程入学、2010年 同 修了。同年 同大 未来科学部情報メディア学科 助教、現在に至る。コンピュータグラフィックスの研究に従事。ACM SIGGRAPH、電子情報通信学会各会員、本学会編集幹事。